第２回

鹿角高等学校魅力化ビジョン策定ワークショップ　報告書

日　時	令和 8 年 9 月 14 日（月）17 時 30 分～19 時 00 分
会　場	鹿角高校　2 階　会議室
対象者	鹿角高校生徒、市内市立中学校 4 校の生徒
進　行	一般財団法人地域・教育魅力化プラットフォーム　高橋洋平氏
内　容	１．オリエンテーション 〇あいさつ 【鹿角高校今川校長】 ・鹿角高校の魅力化への支援に対して、感謝申し上げる。 ・高校生をはじめ、積極的に意見を出していただき、活発な意見交換の場になることを期待している。 〇地域・教育魅力化プラットフォーム高橋氏からの説明 【CPF 高橋氏】 ・鹿角市や鹿角高校の現状（人口減少とそれに伴う生徒数の減少が見込まれることや、地域外の高校に進学する生徒が一定することなど）を共有。 ・このワークショップの前には、大人たちが本気で考える会を実施した。 ・市や高校が魅力化に向けて取り組んでいるが、主役は中高生であり、大人たちの想像だけでは良い学校にはならない。 ・前半は参加者同士を知る時間とワークショップの練習の時間。 ・後半で将来に向けたワークを２つ行い、最後に発表を行う。 ・進行補助として CPF 松岡氏、大谷氏が入る。 ・「yes, and」で話す（いいね、から始める）こと、「小さな本音大歓迎。本音で話す」ことを２つのルールとしてほしい。 〇今回のワークショップのゴール 地元にあったら最高！ こんな高校を考えよう 〇グループ編成 中高混合で 7 グループ。1 グループあたり 3～4 人とした。

２．アイスブレイク

①最近楽しいこと、ハマっていること

・映画・ドラマ鑑賞、読書、料理、音楽鑑賞など。
・学校生活の中では、バドミントンでサーブが決まった、野球の試合に勝てた、テストで満点・好成績だったなど、日頃の頑張りが結果に表れた瞬間が喜びとして語られ、後輩の部活の手伝いや定期演奏会の鑑賞といった仲間・先輩後輩との関わりも楽しみに挙がっていた。
・さらに、好きなアーティストのライブ、アニメ・漫画（『ちいかわ』『僕のヒーローアカデミア』など）、スマホゲームといった「推し活」「趣味」が、日常のエネルギー源になっている様子がうかがえた。

②最近、悩んでいること、ちょっと嫌だったこと

・朝起きるのがつらい、通学バスに間に合わない
・学業面（テストの点数が振るわなかった、国語の漢文や数学など特定教科への苦手意識など）
・部活動（練習の厳しさや思うような結果が出せなかった悔しさなど）
・ケガや身長が伸びないことなど
・高校生活で増える学業の負荷と、自分の好きなこととの両立の難しさ

３．グループワーク１

※別紙「全体総括・各グループまとめ」参照

①鹿角高校のイメージ

鹿角高校には主に次のようなイメージが持たれていた。

・校舎がきれい・新しい
・部活動が盛ん、または強い。特に野球が強い・目立つ
・楽しそう、明るい、にぎやか、元気
・一方で、校則や学校の雰囲気が厳しい、かたくるしいとの記載
・入学しやすい、学力・偏差値は高くなさそう
・地域やイベントとの関わりが深そう

②鹿角高校のいいところ

次のような点が実際の鹿角高校の良いところとして挙げられていた。

・校舎がきれい
・部活動が強い、充実している
・教員が優しい、話しやすい
・進学・就職・資格取得など多様な選択肢がある
・知り合い、友人が多い
・行事や文化祭がある
・地域との関わりがある

４．グループワーク２

出された意見を学校・部活・施設・友人・その他の５カテゴリに分けながら、以下の　①、②のワークに取り組んだ。

①「鹿角高校の良くなってほしいところ」

全体をみると、次のような意見が挙げられていた。

・校則（髪型、髪色、制服）
・行事や交流機会
・授業内容、コース、進路支援
・部活動（新設、種類）
・食堂、購買、売店、自販機の設置
・休憩、昼食、学習に使う設備
・小中学生、他学年、地域、海外との交流
・有名人、テレビ、SNS などによる学校の露出
・通学、通信などの学校生活に関する環境

②その実現方法

「良くなってほしいところの実現方法」を考えた。

「大人を頼るだけでなく、自分たちで実現するとしたらどういう方法があるか」という視点を持たせたことで、幅広いアイデアが出ていた。

・校長・教員への要望や提案
・生徒会・生徒総会・全校生徒による意思決定
・生徒自身による活動や努力
・部活動・委員会などの組織の新設
・地域、企業、外部人材への協力依頼
・募金・クラウドファンディングなどの資金確保
・情報発信やメディアの活用
・既存の授業、行事、交流機会への組み込み

③発表

挙げられた意見についてグループごとに発表

５．まとめ

・今回のワークショップで出された意見が今後どのように活かされるのかを共有。（今年度方針を決める→来年少しずつ実施→再来年には新しい鹿角高校へ…）

	・高橋氏から参加生徒たちに「未来を予測する最良の方法は、それを自ら創り出すことだ」というアラン・ケイ（計算機科学者）の言葉が贈られた。 以上
資　料	・スライド資料「鹿角ミライ作戦会議」







